

SAISON  
INFORMATION  
SYSTEMS  
CO.,LTD.

第41期上半期報告書

2009年4月1日～2009年9月30日

株式会社 セゾン情報システムズ

## ごあいさつ



### Contents

ごあいさつ	1
連結財務ハイライト	2
中期経営計画（2009年3月期～2011年3月期）	3
上半期業績と今後の取り組み	4
事業内容および活動概況	5
特集「オープンサーバ・ホスティング・サービスのご紹介」	7
連結財務諸表	9
株式情報	11
配当および株価情報	12
会社概況	13
アンケート結果	14

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より当社の経営にご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第41期上半期（2009年4月1日～2009年9月30日）の業績についてご報告申し上げます。

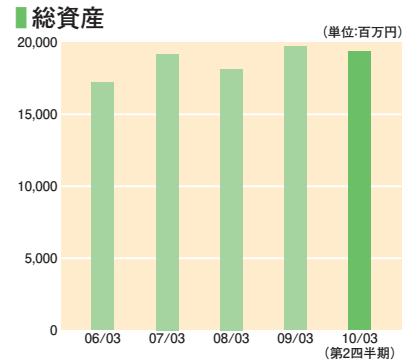
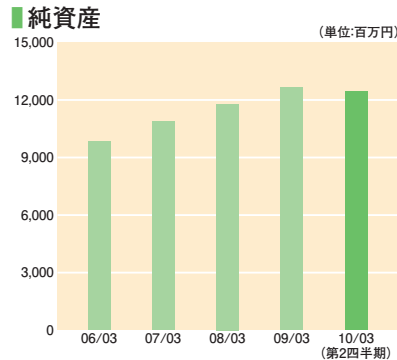
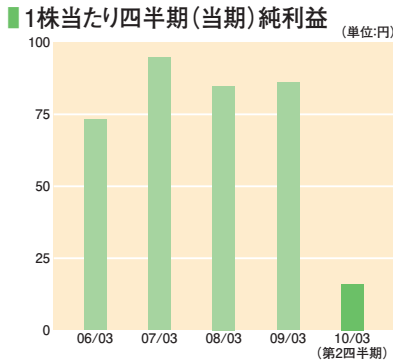
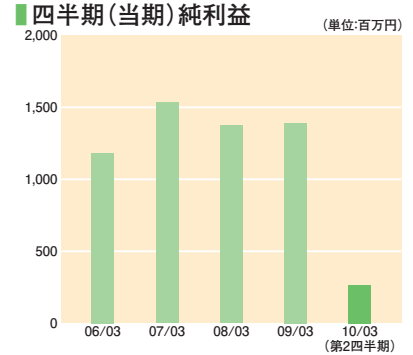
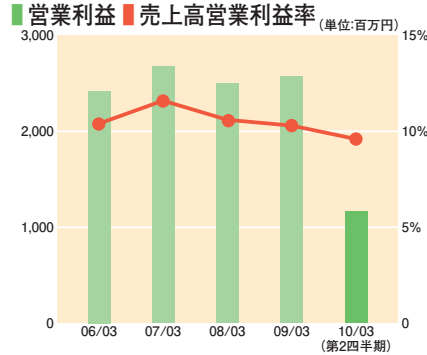
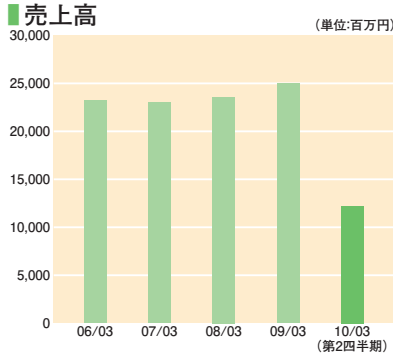
第41期は「顧客創造企業へ」を目標に掲げた中期経営計画の2年目となります。当社は、当事業年度を「未来への布石」を打つ年と位置づけ、「金融」、「流通サービス」、「HULFT（ハルフト）」、「BPO（ビーピーオー）」の各事業分野において、事業基盤となる製品・サービスの拡充と生産性の向上に力を入れ、事業計画達成へ向けて進んで参りました。こうした事業活動の結果、当上半期における連結売上高は12,196百万円、営業利益は1,168百万円と、新たに開設したデータセンターに対する投資を行いながらも、四半期純利益を除き、増収増益を実現することができました。

業界全体を取り巻く環境は厳しく、今後もその状況は継続するでしょう。しかし、システムにはライフサイクルがあります。個々の企業の情報化投資ニーズを的確に把握することができれば、当社事業の成長を持続させることは可能と考えています。下半期におきましてもマネジメント力とスピードをもって計画を推進し、継続的な成長の実現に向け、より一層の努力を重ね、皆様のご期待に沿うよう邁進する所存でおります。株主の皆様におかれましては、引き続きセゾン情報システムズをご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2009年12月

代表取締役社長 宮野 隆

## 連結財務ハイライト



(単位:百万円)	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期 (第2四半期)
売上高	23,022	22,997	23,559	24,996	12,196
営業利益	2,419	2,674	2,499	2,571	1,168
売上高営業利益率 (%)	10.4	11.6	10.6	10.3	9.6
四半期(当期)純利益	1,184	1,535	1,374	1,392	261
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	73.15	94.82	84.87	85.96	16.16
純資産	9,822	10,880	11,793	12,658	12,463
総資産	17,215	19,202	18,164	19,730	19,376
自己資本比率 (%)	57.1	56.7	64.9	64.2	64.3
1株当たり純資産 (円)	606.40	671.73	728.01	781.36	769.33

※2005年11月18日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。

**中期経営計画** 当社グループでは、第42期を最終年度とする中期経営計画（2009年3月期～2011年3月期）を推進しております。

## ◆当社の「強み」と「弱み」

当社の最も大きな強みは「事業バランスの良さ」です。売上規模こそ中堅ですが、システム開発でボリュームを増やし、運用で安定的な収益源を確保、パッケージで高い収益を獲得するという事業モデルは、情報サービス産業でもそう多くはないと自負しております。

一方、当社の最大の弱みは「顧客層が薄い」ということです。現状の事業基盤を拡充し、お客様を増やしていくことこそが、当社が継続的な成長を遂げていくために必要不可欠であると認識しております。

## ◆中期ビジョン「顧客創造企業へ」

前項で述べた認識に基づき、中期経営計画では「顧客

図1

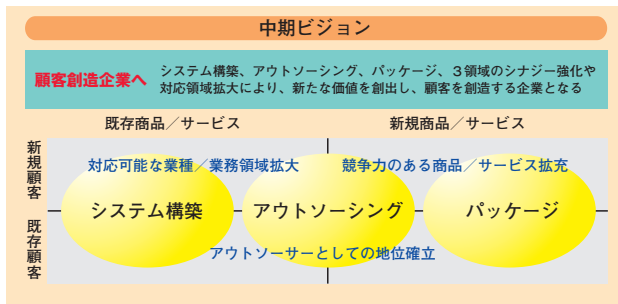
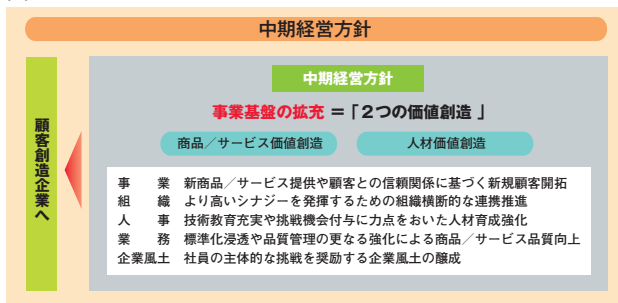


図2



創造企業へ」という中期ビジョンを掲げております。システム開発では対応領域や業種を拡げ、運用ではアウトソーサーとしての地位を確立し、パッケージでは競争力のある商品やサービスを増やしている、そのような姿を実現し、顧客を創造できる企業として成長を遂げたいという想いをこのビジョンに込めております。（図1）

## ◆中期経営方針「事業基盤の拡充＝2つの価値創造」

中期ビジョンを実現していくための中期経営方針が「事業基盤の拡充＝2つの価値創造」です。当社の強みである「事業バランスの良さ」を保ちつつ、その基盤を拡充し、「顧客創造企業」への変貌を遂げるべく、「商品／サービス価値創造」と「人材価値創造」を推進いたします。（図2）

### ■「商品／サービス価値創造」

お客様のニーズに合うより良いサービスや商品を提供することで、お客様の信頼を獲得し、存在感の高い企業へと成長することを目指します。「商品／サービス価値創造」のため、カードのノウハウを活かした金融関連の外販／流通関連のアライアンス推進／データセンターの強化といった施策を推進いたします。

### ■「人材価値創造」

当社のような業態では「人が全て」であり、一人ひとりの技術力や業務知識、生産性などの向上が、企業価値向上に直結します。「人材価値創造」に向け、キャリアパスを明確にしたうえでの教育研修／ローテーション／積極的な人材採用などの施策を通じて社員一人ひとりのレベルアップを図るとともに、人事制度の見直しやコミュニケーションの活性化、行動規範の浸透などにより、チャレンジする社内風土の醸成やコンプライアンスの遵守を徹底して参ります。

このような施策を推進することにより、最終年度である第42期（2011年3月期）において売上高300億円、営業利益28億円を達成すべく、役員、社員一丸となって事業を推進しております。

## 上半期業績と今後の取り組み

### ◆2010年3月期上半期業績について

2010年3月期上半期は、売上高が前期比10.5%増となる12,196百万円、営業利益が前期比24.1%増となる1,168百万円、経常利益が前期比22.9%増となる1,202百万円と、四半期純利益を除き、増収増益となりました。データセンター増強／移転により増加した約4億円の売上原価を吸収して増収増益となった要因は、金融システム事業における大型開発案件が大きなトラブルなくサービスインできたこと、自社開発製品HULFT（ハルフト）の保守サービス成約率が向上したこと、赤字事業であるBPO（ビーピーオー）事業の収益改善が進んだことなどがあげられます。四半期純利益は減益ですが、当初予想していた赤字からは大幅に好転し、黒字を確保することができました。（図1）

### ◆今後の取り組みと通期の見通しについて

前述の通り、上半期は計画を達成し増収増益となりました。下半期はこれに甘んじることなく、顧客対応力の強化、新規案件の獲得に力を入れ、事業計画の達成に邁進して参ります。（図2）また、次のような取り組みを実施することで、次世代の事業基盤を確固たるものとするための布石を打って参ります。

- ストックビジネス拡大などに向けた新サービス「オープンサーバ・ホスティング・サービス」の立ち上げ準備（\*P.7-8特集にてご紹介しています。）

- データセンター増強／移転の着実な推進
- HULFT（ハルフト）に次ぐ次世代統合基盤製品の企画開発
- アライアンス・パートナーとの協業強化  
株主の皆様におかれましては、引き続き倍旧のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

図1

2010年3月期上半期業績概要					
(単位：百万円)	09/03期		10/03期		
	実績	実績	前期比	当初計画	計画比
売上高	11,033	12,196	+10.5%	11,008	+10.8%
営業利益	941	1,168	+24.1%	416	+180.8%
経常利益	978	1,202	+22.9%	419	+186.9%
四半期純利益	525	261	△50.2%	△771	—
営業利益率	8.5%	9.6%	+1.1P	3.8%	+5.8P

図2

通期計数計画			
(単位：百万円)	10/03期 計画	09/03期 実績	前期比
売上高	26,000	24,996	+4.0%
営業利益	2,000	2,571	△22.2%
経常利益	2,004	2,630	△23.8%
当期純利益	710*	1,392	△49.0%
当期純利益/株（円）	43.83	85.96	△49.0%
営業利益率（%）	7.7%	10.3%	△2.6P

※2009年9月17日に、通期業績予想を上方修正

### 金融システム事業



金融システム事業では、主にクレジットカードに係わる情報システムの構築と運用管理サービスを提供しております。クレジットカードに係わる情報システムは、クレジットカード新規発行のためのシステム、売上／請求／入金／回収など、ユーザーがショッピングやキャッシングをスムーズに行うためのシステム、加盟店管理のためのシステム、他の金融機関との決裁ネットワークなど、複雑かつ多岐にわたるシステムです。当事業では、カードを利用する多くの皆様方の『信頼と安心』を支えるべく、多岐にわたる情報システムの運用管理を24時間、365日体制でサポートしております。

当上半期においては、大型案件の開発成功や収益性の改善により、売上に大きな貢献を果たしました。下半期においては、引き続き新規顧客の開拓に力を入れるとともに、新サービス（オープンサーバ・ホスティング・サービス）の立ち上げに向けて体制を強化していきます。

### 流通サービスシステム事業

当期より「流通システム事業」を「流通サービスシステム事業」と改めました。商品の生産と消費をつなぐ「流通業」だけではなく、より広範な「サービス業」もターゲットに加え、情報システムの構築と運用サービスを提供しております。百貨店、スーパー、量販店、外食店、公共インフラサービスなど、お客様の業態は様々です。当然、それぞれが提供している商品／サービスや抱えている課題は異なり、システムに求められる役割も異なります。当事業では、1970年の創業以来、培ってきた開発実績と業務ノウハウを駆使し、お客様が抱える問題を解決するためのシステム作りと環境作りを支援しております。

当上半期においては、大型案件の反動減から前年比で売上は減少したものの、収益性は改善しました。また、今年1月より資本提携を開始したユニックス社との協業案件の成果が出始めました。営業戦略を強化し、更なる新規顧客開拓を進めていきます。



## HULFT事業



インターネットが普及し、世界中の様々な取引がオンラインで行われている今日、迅速かつ正確に大量のデータ交換を行うシステムが、多くの企業において必要不可欠となっています。このようなニーズに応える、自社開発製品「HULFT (ハルフト)」は、ネットワーク上のデータの橋渡しを容易に実現するオープンなミドルウェアです。「HULFT (ハルフト)」は、あらゆるネットワーク環境、複数の異なるプラットフォーム間で、ファイルの自動転送を可能とします。昨今は、お客様のシステム連携最適化を実現する役割も担うようになり、その利用範囲はますます拡大しております。

当上半期においては、製品出荷本数の伸びは鈍化しているものの、堅調なソリューションサービスと保守サービス成約率の向上により、利益への貢献度は非常に高いものとなっています。代理店とのリレーション強化、OEM推進等、開拓型営業に力を入れるとともに、次世代の統合基盤となる製品の企画開発を進めていきます。

## BPO事業

企業において従業員の給与計算や勤怠管理に割かれる業務量は膨大なもの。そして、常に正確性が問われる、非常に責任重大な業務です。BPO (ビーピーオー) 事業では、給与計算や勤怠管理などに代表される人事給与業務のアウトソーシングサービス「Bulas (ビューラス)」を提供しております。「Bulas (ビューラス)」は、勤怠管理が煩雑、年末調整作業が大変、度重なる法改正に対応しきれないなど、お客様の人事給与業務に関する悩みを解決し、お客様が人事部門におけるコア業務へ集中していただける環境作りをサポートすることを使命としております。

当上半期においては、機能別組織への再編、マネジメント強化などが成果を出しつつあり、収益改善が進んでまいりました。一方、営業面においては、主力商品である給与計算代行業務の受注を増やすため、営業戦略の見直しと顧客対応力の強化を行っています。

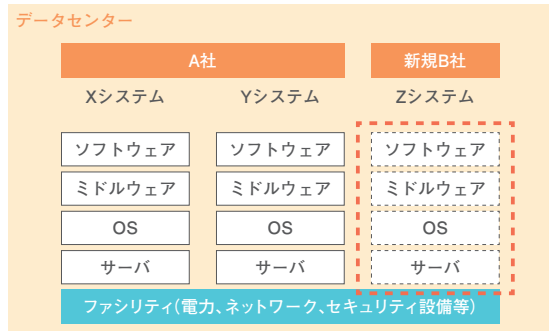


2010年春提供開始(予定)の新サービス

## オープン<sup>\*1</sup>サーバ・ホスティング・サービス<sup>\*2</sup>のご紹介

最近、IT業界ではクラウド・コンピューティング<sup>\*3</sup>というサービス形態が注目されています。現在のクラウド・コンピューティングでは、メール機能やカレンダー機能等のビジネスツールが主流サービスとなっています。一方、この度当社が提供するサービスは、クラウド・コンピューティングの特長を活かしながら、ビジネスの基幹システムを取り扱うものです。

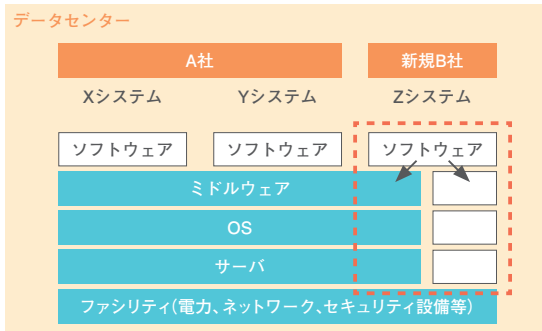
### 従来の当社サービス ハウジング・サービス中心



お客様/システム毎にシステムを構築しています。当社はお客様の資産をお預かりするとともに、ファシリティを提供し、契約内容に応じた維持・保守・運用業務を請け負っています。

### 今後の当社サービス

ハウジング・サービスとホスティング・サービスから選択



お客様は、システム環境を独自に構築するか、当社機器を使用するか選択することができます。当社機器を使用する場合、システムの稼働環境からソフトウェアの運用までをまとめて、当社に依頼することができます。

…当社提供領域

## 用語解説

\*1 オープン(系)：

様々なメーカーのソフトウェアやハードウェアを組み合わせて構築したシステムのこと。ホストと呼ばれる大型コンピュータを使って構築したシステムの対比概念として使われています。

\*2 ホスティング・サービス：

データセンターを運営する業者が保有するシステム機器を使って、お客様のシステムを運用するサービス。当社がこれから力を入れようとしているサービスです。



当社では、24時間365日止まらないことを要求されるような企業の基幹業務を遂行するシステムを多数お預かりしています。このようなシステムは、可用性（システムの壊れにくさ）やセキュリティ等を担保するため、自社所有やハウジング・サービス\*4で運用を行っているケースが多く、当社でもお客様にご満足いただけるハウジング・サービスの提供に注力して参りました。

一方、最近、注目されているクラウド・コンピューティングというサービス形態では、お客様が独自にシステムを所有する必要はなく、「使用量に応じた課金制度」や「柔軟な拡張性を有するハードウェア」等、ハウジング・サービスではご提供の難しい便益を実現することができます。

この度、当社が提供する「オープンサーバ・ホスティング・サービス」は、これまでハウジング・サービスとしてお預かりすることが一般的だった業務系システムに対し、上記のような便益をご提案するものです。

## ■ 「オープンサーバ・ホスティング・サービス」の特長

### （1）お預かりした業務系アプリケーションの稼働環境から運用業務までをワンストップで提供。

－お客様は、アプリケーションの仕様や使い勝手に集中することができます。

（ご要望に応じて、機能改善のご相談に乗ることも可能です。）

－お客様は、業務系アプリケーションの利用に不可欠な維持・保守・運用業務のアウトソーシングを同時に実現できます。

### （2）自社所有やハウジング・サービスでは実現しえない従量課金制。

－お客様は、トランザクションに応じた月額利用料のみ課金されるため、運用コストの無駄を抑制することができます。

### （3）最適化したインフラ（ファシリティ、サーバ、OS、ミドルウェア）を提供。

－お客様は、独自の環境を構築する必要がなく、導入初期にかかる費用と時間を大幅に削減できます。

－お客様は、インフラのキャパシティや老朽化を心配することなく、常に無駄のないインフラを使用することができます。

－お客様は、必要なシステム領域を利用することができます。

#### \*3 クラウド・コンピューティング：

インターネットの向こう側、すなわち「クラウド（雲）」の中から、所在を意識することなくデータやソフトウェアを取り出して、使った分だけ料金を払うサービス形態のこと。最近IT業界で注目されている考え方です。

#### \*4 ハウジング・サービス：

データセンターを運営する業者がお客様のシステム機器を預かって、お客様のシステムを運用するサービス。当社がこれまで力を入れてきたサービスです。

## 連結財務諸表

### 連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	期別	当第2四半期末 (2009年9月30日現在)	前期末 (2009年3月31日現在)	科目	期別	当第2四半期末 (2009年9月30日現在)	前期末 (2009年3月31日現在)
<b>■資産の部</b>				<b>■負債の部</b>			
流動資産		12,739,521	13,558,516	流動負債		4,518,904	5,214,562
現金及び預金		8,000,117	7,113,485	支払手形及び買掛金		1,087,957	1,463,954
受取手形及び売掛金		2,775,513	4,826,144	未払法人税等		227,471	708,383
有価証券		400,130	400,092	その他		3,203,476	3,042,225
仕掛品		528,480	276,932	固定負債		2,394,790	1,857,949
その他		1,035,281	941,863	退職給付引当金		1,599,719	1,705,549
固定資産		6,637,306	6,172,022	その他		795,071	152,400
有形固定資産		1,541,421	1,453,041	負債合計		6,913,694	7,072,512
無形固定資産		851,152	661,483	<b>■純資産の部</b>			
投資その他の資産		4,244,731	4,057,497	株主資本		12,410,650	12,634,901
資産合計		19,376,827	19,730,538	資本金		1,367,687	1,367,687
				資本剰余金		1,462,360	1,462,360
				利益剰余金		9,580,602	9,804,853
				評価・換算差額等		52,483	23,124
				その他有価証券評価差額金		55,298	24,008
				為替換算調整勘定		△ 2,815	△ 883
				純資産合計		12,463,133	12,658,026
				負債純資産合計		19,376,827	19,730,538

## 連結損益計算書

(単位：千円)

科目	期別	当第2四半期 (2009年4月1日～ 2009年9月30日)	前第2四半期 (2008年4月1日～ 2008年9月30日)	増減額
売上高		12,196,518	11,033,384	1,163,134
売上原価		9,328,010	8,301,318	1,026,692
売上総利益		2,868,507	2,732,065	136,442
販売費及び一般管理費		1,700,007	1,790,862	△90,855
営業利益		1,168,499	941,203	227,296
営業外収益		36,668	41,538	△4,870
営業外費用		2,236	3,908	△1,672
経常利益		1,202,931	978,833	224,098
特別利益		1,100	86	1,014
特別損失		737,645	42,996	694,649
税金等調整前四半期純利益		466,385	935,923	△469,538
法人税、住民税及び事業税		—	—	—
法人税等調整額		—	—	—
法人税等		204,637	409,942	△205,305
四半期純利益		261,748	525,980	△264,232

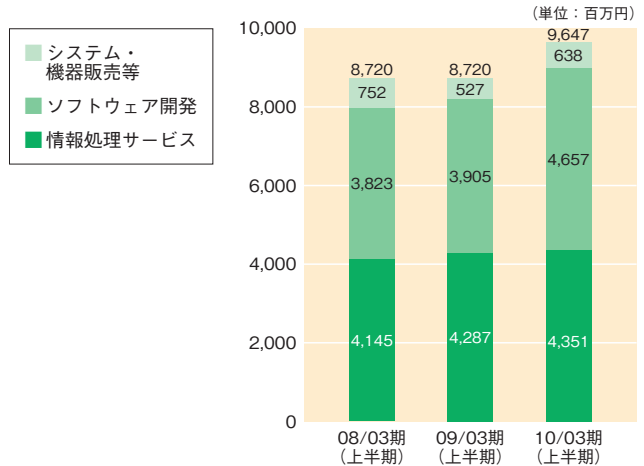
## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

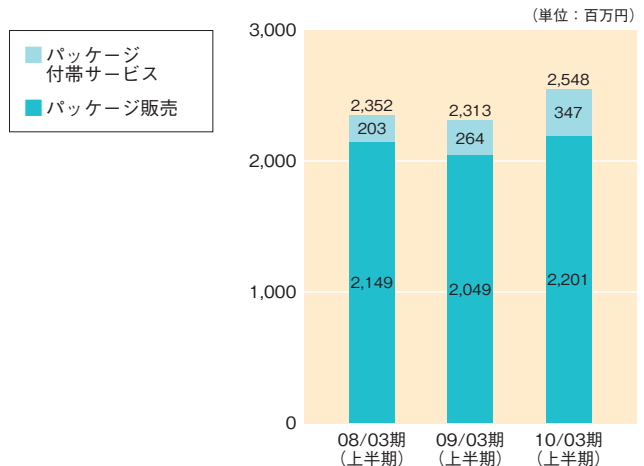
科目	期別	当第2四半期 (2009年4月1日～ 2009年9月30日)	前第2四半期 (2008年4月1日～ 2008年9月30日)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,999,132	1,143,680	855,452
投資活動によるキャッシュ・フロー		△624,908	△34,237	△590,671
財務活動によるキャッシュ・フロー		△486,161	△483,142	△3,019
現金及び現金同等物に係る換算差額		△1,431	5,420	△6,851
現金及び現金同等物の増減額		886,631	631,721	254,910
現金及び現金同等物の期首残高		7,113,485	7,312,830	△199,345
現金及び現金同等物の四半期末残高		8,000,117	7,944,551	55,566

## セグメント別売上高

### ■システム構築・運用事業



### ■パッケージ事業



## 株式情報 (2009年9月30日現在)

### 株式の状況

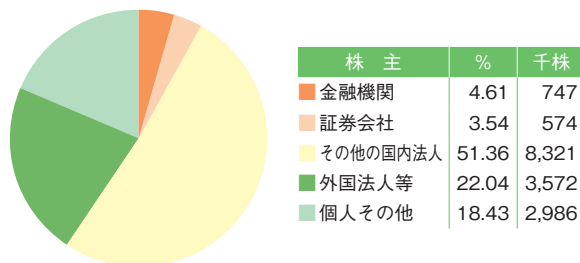
発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	16,200,000株
株主数	2,176名

### 大株主(上位10名)

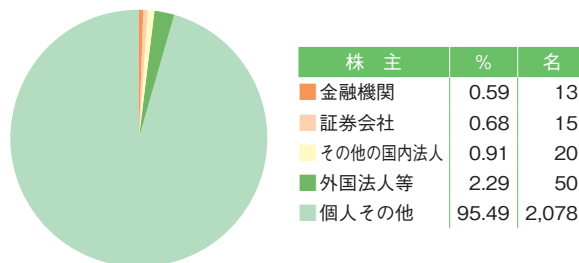
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
株式会社クレディセゾン	7,588	46.84
ロイヤルバンクオブカナダトラストカンパニー(ケイマン)リミテッド	1,221	7.54
ザバンクオブニューヨークノントリーティージャステックアカウント	1,030	6.36
セゾン情報システムズ社員持株会	589	3.64
ゴールドマン・サックスインターナショナル	567	3.50
立花証券株式会社	505	3.12
株式会社インテリジェントウェイブ	500	3.09
モルガン・スタンレーアンドカンパニーインターナショナルピーエルシー	274	1.70
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	270	1.67
株式会社みずほ銀行	196	1.21

### 所有者別分布状況

株式分布状況



株主数分布状況



## 配当および株価情報

### 配当及び株価情報

#### 配当政策

当社では、収益の向上が株主の皆様への利益還元につながる業績との連動性強化と、万一業績が悪化しても一定の配当水準を維持する安定配当の両立を図りたいという考えのもと、利益配分に関して以下の基本方針を掲げております。

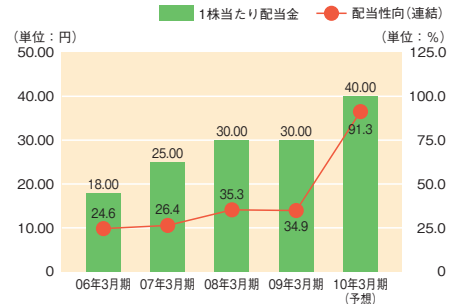
#### 当社の配当に関する基本方針

- 業績との連動性強化  
連結当期純利益の3割前後を目安に配当性向を確保  
(2007年5月に連結配当性向の目安を2割前後から3割前後へと変更)

- 安定配当

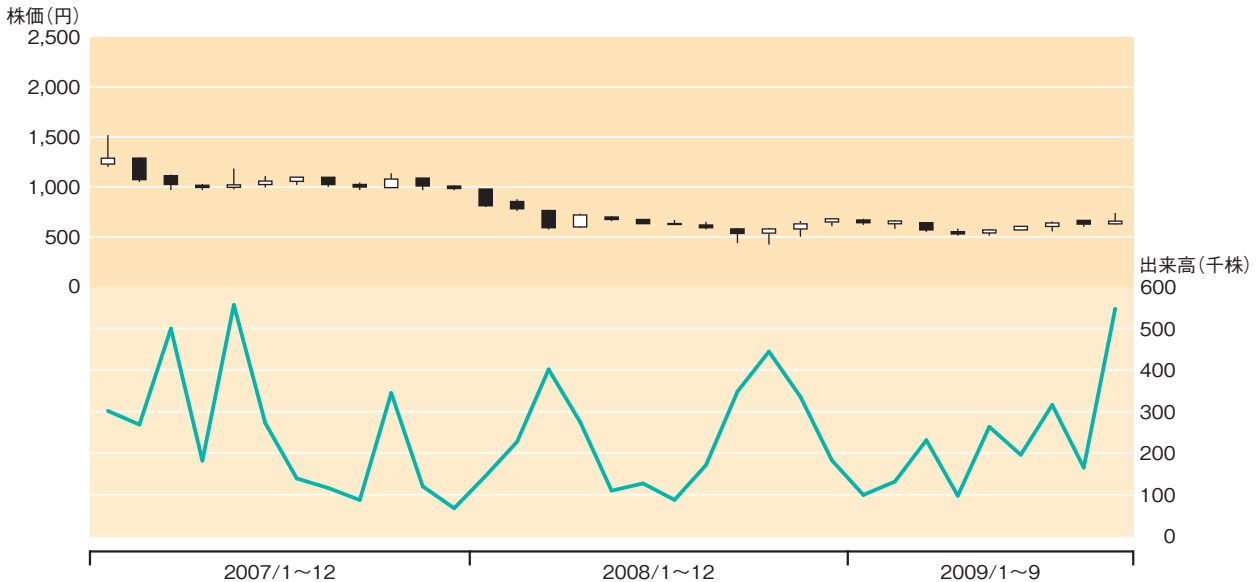
万一の業績悪化時にも、1株あたり10円の配当金維持

※当期の減益予想は、前向きな投資によるものであるため、普通配当30円を維持し、また、2010年に創立40周年を迎えることから記念配当として10円増額する方針です。



※2005年11月18日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。

#### 株価情報



## 会社概況 (2009年9月30日現在)

### 会社の概要

**商号** 株式会社セゾン情報システムズ  
 SAISON INFORMATION SYSTEMS CO.,LTD.  
**設立年月日** 1970年9月1日  
**資本金** 1,367,687,500円  
**従業員数** 1,021名(連結)、707名(単体)  
**本店** 東京都豊島区東池袋三丁目1番1号  
 TEL:03(3988)2020(代表)

### 役員構成

取締役会長(非常勤)	山本光介*	取締役	水上龍太郎
代表取締役社長	宮野隆	取締役(非常勤)	梶山正博*
専務取締役	田辺圭佑	取締役(非常勤)	安達一彦*
取締役	野津浩生	監査役	森信等*
取締役	西川信次	監査役	近藤昌二
取締役	笠井誠	監査役(非常勤)	三木茂*
取締役	菅崎悟	監査役(非常勤)	富澤宏*
取締役	瀧澤靖		

\* 社外取締役、社外監査役

### 関係会社の状況

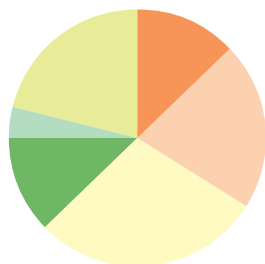
会社名	資本金	出資比率	主要な事業内容
株式会社フェス	60,000千円	100.00%	情報処理サービス
株式会社HRプロデュース	60,000千円	100.00%	人材派遣、人材紹介
世存信息技術(上海)有限公司	30,000千円	100.00%	パッケージソフトウェア開発
株式会社ユニックス	222,500千円	37.78%	ソフトウェア開発、情報処理サービス

## 第40期年次報告書 同封アンケート 集計結果

第40期年次報告書送付の際に実施させていただきました「株主様アンケート」につきましては、多くの株主様からご回答および貴重なご意見・ご要望をお寄せいただきました。お忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございました。

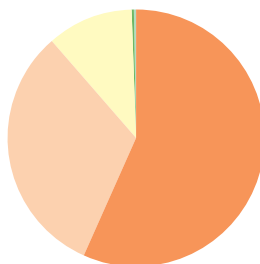
簡単ではございますが、主な質問項目に対する回答結果についてご報告申させていただきます。

### 1 当社株式の保有期間について



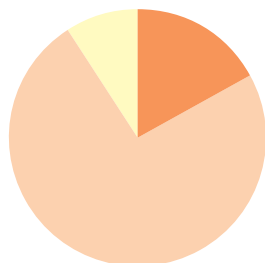
回答	%
1年未満	13
1年～2年未満	21
2年～3年未満	29
3年～4年未満	12
4年～5年未満	4
5年以上	21

### 2 株式投資で重視すること



回答	%
配当利回り	57
値上がり	32
株主優待	11
安定性	0
将来性	0

### 3 第40期配当政策に関する評価



回答	%
期待を上回る	17
期待通り	74
期待を下回る	9

「当社株式の保有期間について」よりわかる通り、2年以上当社株式を保有しておられる株主様が、全体の約2/3を占めています。配当利回りを重視される株主様が多い中、第40期の配当政策は、概ねご高評をいただけたようです。（「期待を上回る」と「期待通り」の合計：約90%）

株主の皆様のご意見を参考に、今後も株主の皆様のご期待に添えるよう、情報開示・IR活動の充実に努めて参ります。

### 4 その他、お気づきの点等がございましたらお聞かせください

●不況下での安定的な配当 ●株価対策 ●自社株買いの実施 ●市場変更  
について等、多くのご意見や激励のお言葉をいただきました。

今回もアンケートはがきを同封させていただいております。

株主の皆様の貴重なご意見を今後の経営とIR活動に活かしていきたいと考えております。ご協力のほど、お願い申し上げます。

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	3月31日から3ヵ月以内
配当金受領株主確定日	3月31日及び中間配当を行う場合は9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
〔郵便物送付先〕	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
〔電話照会先〕	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL：0120-288-324（フリーダイヤル）